

## 渡航外来におけるワクチン接種の勧め

病原体の封じ込めが、どれだけストイックで犠牲を伴うものか、この数か月間、皆様が身をもって体験され、日々新型コロナの感染者数を気にしながらの生活となっていますが、いかがお過ごしでしょうか。今後、国内の収束と伴に、出入国管理における COVID-19 対応が注目されていますが、他の病気についてのワクチン接種も着目されています。

これまでも海外への渡航（短期の滞在、留学を含む）に際し、国によっては黄熱やポリオ、はしか（麻疹）の「予防接種証明」の提示が必要です。今後 COVID-19 のワクチン接種が一般化されたならば、予防接種証明の提示など義務化されることも十分考えられます。（非感染証明の提示については、既に行われています。）

とにかく世の中には、種類多くの病原体が潜んでおり、ワクチン接種によって封じ込められている病気が沢山あります。最近では小児期の定期予防接種だけでなく、高齢者への肺炎球菌ワクチンの接種なども推奨されています。本稿はこの機会に、海外渡航者向けに推奨されるワクチン接種についてまとめたものです。

### （渡航前の確認・接種計画について）

渡航先での流行はファッションや食べ歩き情報だけでなく、感染症の流行について、厚生労働省検疫所のホームページから確認しておきましょう。

**FORTH** <https://www.forth.go.jp/index.html>

破傷風、A型肝炎、腸チフスなどは、野外での活動・水系感染のリスクとして、B型肝炎は血液を介しての感染となり、医療従事者をはじめリスクが考えられる方に接種が求められます。このほかアジア地域の多くでは、日本脳炎、狂犬病、髄膜炎菌性髄膜炎の予防接種が推奨されています。（国、地域別に確認して下さい。）また、はしか（麻疹）の流行に対しても、警告がなされている国があります。

流行病がわかったらワクチン接種の可否、接種スケジュールを含めてお医者さんに相談しましょう。様々なワクチンがストックしてある渡航外来に相談することが賢明ですが、破傷風や日本脳炎など国内でも予防接種が勧められている感染症については、お近くの内科医、小児科でも相談の上接種が可能です。黄熱については、検疫所にご相談下さい。

ところで皆さん、ご自身が小児期に定期接種を受けたワクチンの種類を覚えていますか？社会人になってから接種したワクチン記録はありますか？母子手帳が残っていれば幸いです。年代によって3種混合だの4種だの。また素人には、はしかの詳細な種類すら区別つきません。判子注射や皮下注射が嫌で、泣きべそを掻いていた幼馴染の記憶はありますが・・・

( ワクチン接種記録：Vaccination Record の勧め )

10年ひと昔、忘れるのもあっという間です。このためワクチン接種記録を付けておくことをお勧めします。自身の母子手帳を親御さんから引継ぎ、風疹だの、おたふく風に罹ったことがあるかなど、小児期の病歴を聞いておくことも賢明です（自身20代の頃に聞いておくべきでした。筆者反省）。この記録には、出来ればワクチンの製造元を含め、いつ接種したかを記録しておくことが望まれます。

破傷風、肝炎、狂犬病などは、基礎免疫が定着するまで3回の接種が必要です。また、一度有効となった基礎免疫も、経年的に抗体レベルが薄くなり、いずれ消失します。有効性を保持するためには、抗体がまだ有効な一定期間内に追加接種：ブースターショットする必要があります。破傷風も基礎免疫に有効期限があり、初期の3回接種の後、追加接種することが求められます。

改めて専門のお医者さんに、ワクチン接種記録を持参し、必要なワクチン接種の種類、追加接種の可否を相談しましょう。小児期に受けた定期予防接種の有効性や、基礎免疫の有効性（抗体レベルの判定など）を含め、専門医のアドバイスを受けましょう。人間ドックのオプション（A・B型肝炎抗体レベル）や、保健所からの検査案内（風疹の抗体、年代別）もあります。これらの機会にご自身の抗体レベルを確認しておくこともお勧めします。

ワクチンの多くは医療保険の対象外の場合も多く、決して安価なものではありません。必要な情報の入手と、お医者さんのアドバイスを含め、自己責任となります。ご自身の業務・活動内容（国内・海外渡航先）に伴うリスクに応じ、必要な予防接種をご判断ください。（業務内容、ワクチンの種類によっては、事業主の責任もあります。）

ワクチン接種で対応可能な病気は、ごく一部であり、狂犬病などのように事前のワクチン接種に加え、罹患後に改めて処置を必要とする感染症もあります。個々の病気について、確かな医学情報を、ご自身でご確認ください。マラリヤやデング熱、鳥インフルエンザなどへの対応についても同様に、最新の知見によって下さい。

（本稿は、（独）国際協力機構の予防接種の手引き・渡航外来の専門医の指導に基づき執筆したものです。厳しい渡航制限の中、いつになるかわからない派遣を前に、任国インドネシアでの活動準備を進めております。皆様ご安全に。）

田中松生 （元 JS 事業統括部計画課）